

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2022 No.556

4 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2021年度 第5回理事会 開催される (Web併催)

2022年2月26日(土)午後2時から6時まで、本会事務所
で2021年度第5回理事会が開催されました(Web併催)。
冒頭、上田会長よりあいさつがあり、定数確認、議事録作成
人の指名(上田万珠代総務委員)の後、第4回理事会議事録
の確認が行われ、議事審議に入りました。

議題として、(1)「日本医学会総会2023東京」へのブース
展示協力参加について(2)2022年度事業計画案について(3)
2022年度事業予算案について(4)本年度の永年勤続表彰者・
功労表彰者について(5)中澤靖夫前会長の名誉会員推挙に
ついて(6)畦元将吾氏の日本診療放射線技師会顧問就任に
ついて(7)第84回定時総会開催について(8)第84回定時
総会時の役員選任投票方法(委任状関係)について(9)
Webサイトリニューアル委託先ベンダー選定について(10)

鈴木医療科学大学大学院入学応募資格の変更について(11)
会誌目次案・Network Now台割案について(12)入会者・
退会者・会費免除者・除籍者の承認について——が各担当
理事より説明され、賛成多数により全ての議案が承認されま
した。

議題審議終了後、報告事項に移り、2021年度期中往査報
告、診療放射線技師議員連盟の発足について、第2回放射線
診療4団体連絡協議会の開催について、原子力災害対策指針
の改正案に対する意見募集について、JART-JSRT協力体制
推進特別委員会について、JARTフェイスブック開設・運用
について——など、37項目に上る報告がなされ終了しまし
た。詳細は、本会会誌5月号掲載予定の2021年度第5回理
事会議事録(抄)をご参照ください。

2021年度 がん放射線治療における質の確保に 向けた基礎セミナー 開催される (Web開催)

本会の事業計画には「がん対策ならびに検診受診促進に関
する事業」を行うことが明記されており、その中には「がん
放射線治療の均てん化」として「がん放射線治療の均てん化
ならびに質の確保、向上に向けた事業を行う」とされていま
す(担当:広報委員会)。

これに基づき、2019年度から本会広報委員会と放射線治
療分科会が合同で「基礎セミナー」を開催しております。

3年目となる今回もWeb技術を用い、2022年2月27日
(日)に「2021年度がん放射線治療における質の確保に向
けた基礎セミナー」が、受講定員を昨年より大幅に増員(100
人)し、右記プログラムで開催されました。

■ 総合司会: 大坂 暁胤 先生 (新潟県立中央病院)

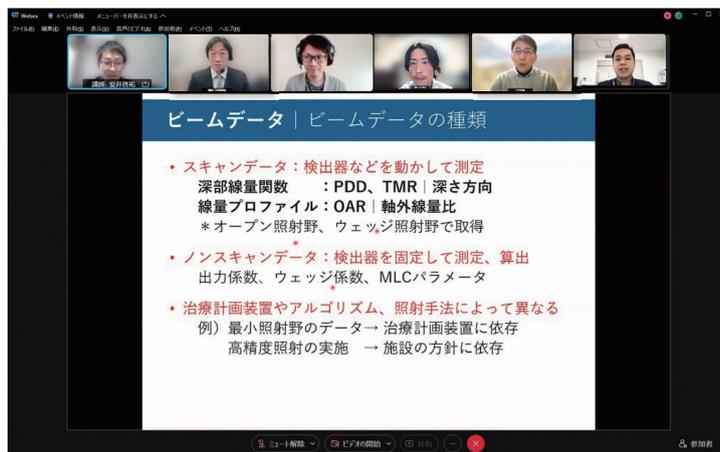
- がん放射線治療における不確かさについて (13:00~13:45)
津野 隼人 先生 (中央医療技術専門学校 診療放射線学科)
- がん放射線治療における高エネルギーX線のビームデー
タ取得に必要とされる知識 (13:50~14:35)
安井 啓祐 先生 (藤田医科大学 医療科学部 放射線学科)
- がん放射線治療における高エネルギーX線の吸収線量評価
(14:40~15:25)
田中 義浩 先生 (京都第一赤十字病院)
- がん放射線治療におけるモニタ単位数 (MU値) 計算の
基礎 (15:30~16:15)
若山 司 先生 (兵庫医科大学病院 放射線技術部)

後日、アクセスログから所定の受講時間が確認された参加者に受講証が郵送され、本年度のセミナーを終了しました。

受講者アンケートにおける本セミナーの開催評価は高く、今後の継続を希望する声が相次ぎました。

一方、セミナー自体の改善を希望するご意見も数多く頂戴しており、参加者の満足度を上げるためには、運営側が知恵を絞る必要がまだまだありそうです。

(広報委員会 松田 恵雄)



Webセミナーの様子（画像の一部は合成です）。上段は総司会の大坂先生（左から2枠目）、川守田放射線治療分科会長（右から2枠目）、講師の先生。

2021年度 第2回JART-JSRT懇談会 開催される (Web開催)

2022年2月8日(火)午後2時より、本会 (JART) と日本放射線技術学会 (JSRT) との定期懇談会が開催されました。この懇談会は年に2回、JART と JSRT が事業連携についての協議や情報共有のために開催しています。新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置により、Web上で開催されました。

本会から上田克彦会長、江藤芳浩副会長、富田博信副会長、児玉直樹副会長、中村勝業務執行理事、江田哲男理事、江端清和理事、上島隆事務局長の8人が、JSRTからは白石順二代表理事、奥田保男副代表理事、梁川範幸副代表理事、市田隆雄副代表理事、岩永秀幸業務執行理事 (広報・渉外)、中前光弘業務執行理事 (学術)、田中利恵業務執行理事 (企画)、柳田智業務執行理事 (大会開催)、林秀隆事務局長代理の9人が出席しました。

本会から第37回日本診療放射線技師学術大会状況報告と謝辞、第38回日本診療放射線技師学術大会へのご協力について、JART創立75周年記念式典開催について、JART-

JSRT協力体制推進特別委員会からの報告について、タスク・シフト/シェアの推進に伴う既有資格者に対する告示研修について報告しました。

JSRTからは第78回総会学術大会の進捗状況、第49回秋季学術大会の開催、第50回秋季学術大会の概要、コンプライアンス規程およびコンプライアンス委員会の新設について、および学会アプリの作成について報告がありました。

議題としては、本会から2022年度のJART-JSRT合同公開市民講座について、テーマを「脳卒中」として、第38回日本診療放射線技師学術大会の会期中の2022年9月18日(日)に、神戸コンベンションセンターで開催することを提案しました。JSRTからは2023年度のJSRT-JART合同市民公開講座について、北海道支部の担当で8月初旬の開催が提案されました。さらに2024年に開催が計画されているJART-JSRT合同学術大会 (日本放射線医療技術学術大会) について活発な意見交換が行われました。

次回は、2022年8月ごろにJSRT事務局で開催予定です。

2021年度 第2回JART-JIRA懇談会 開催される (Web開催)

2022年2月15日(火)、2021年度第2回JART-JIRA (日本画像医療システム工業会) 懇談会がWeb会議で開催されました。懇談会は、JIRAから山本章雄会長、稲葉潔業務執行理事、浜原公幸法規・安全部会長、鍵谷昭典経済部会長、大塚正明事務局長、横田則昭総務部長、本会からは上田克彦会長、江藤芳浩副会長、富田博信副会長、児玉直樹副会長、中村勝業務執行理事、江田哲男理事、江端清和理事、上島隆事務局長が出席して行われました。

冒頭、両会長によりあいさつが交わされ、報告事項として、JIRAから最近のJIRAの活動状況について、経済部会報告よ

り経済部会におけるトピックス紹介、法規・安全部会より最近の医療機器規制の動向について、JARTからは第37回日本診療放射線技師学術大会の状況報告と謝辞、第38回日本診療放射線技師学術大会への協力について、2024年度日本放射線技術学会合同学術大会開催について、JART創立75周年記念式典開催について、タスク・シフト/シェアの推進に伴う既有資格者に対する告示研修について報告がなされました。両会から議題提案はなされず、穏やかな雰囲気の中、懇談会は終了しました。

義務研修

あなたの 診療放射線技師免許 アップデート が必要です!!

新たな業務をつかみ撮れ。



© 横幕智裕・モリタイン/集英社
「ラジエーションハウス」集英社 グランドジャンプにて連載中

医師の働き方改革を推進するため、医師から診療放射線技師への
タスク・シフティングにより診療放射線技師の業務が拡大されます。

あなたの診療放射線技師免許アップデートが必要です!!

画像検査のプロ集団として、国民のために診療放射線技師登録者全員が
受講しなければならない告示研修会（義務研修）が開催されます。



詳しくは JART 特設サイトへGo !

URL http://www.jart.jp/activity/kokujikousyuu_2021.html

2021年度 消化管造影セミナー 開催される (Web開催)

2022年2月15日(火)午後7時より、2021年度消化管造影セミナーがWeb開催されました。

プログラムは①「前壁撮影 ～圧迫用フツンの使い方～」講師：佐藤慎祐氏(浜松ろうさい病院)②「前壁症例」講師：鶴沼清仁氏(東京山手メディカルセンター)——として、各45分の計90分で行いました。

今回のセミナーは、胃X線撮影の特に技術が必要と思われる前壁領域に重点を置き、経験豊富な2人の講師にお話しいただきました。

佐藤氏から前壁撮影での圧迫用フツンの使い方について、胃の形や体形による大きさの使い分けや置く位置の目安、標的部位の描出不良を補う追加撮影、上部前壁領域ではワンランク上を目指す撮影方法、そしてわれわれが決して忘れてはならない事故防止の安全管理など、動画を交え丁寧にお話し

いただきました。

続いて鶴沼氏からは前壁症例を多数提示され、動画を交えながら前壁領域の精密X線検査の撮影方法、基準撮影法との手技の違いなどの解説があり、参加者が実際に病変を発見したときの、追加撮影をする際のポイントになったのではと感じました。会場開催のように症例検討も行われ、読影後、分科会委員から症例の読影ポイントについての詳細を丁寧に解説いただきました。

最後になりましたが、開催に当たりご協力いただきました関係各位、平日にもかかわらずご参加いただいた多数の方々に厚くお礼申し上げます。2022年度も消化管造影セミナーを引き続き開催させていただきます。ご興味がありましたら、ぜひともご参加いただければ幸いです。

消化管画像分科会委員 小豆 誠 (育和会記念病院)

第43回「医療放射線の安全利用」フォーラム 開催される (Web開催)

2022年2月20日(日)午後1時から午後4時20分まで、オンライン (Zoom) 上で第43回「医療放射線の安全利用」フォーラムが開催されました。今回のテーマは「医師・歯科医師のタスク・シフトシェアと医療放射線安全」でした。

昨年、医師の働き方改革に向けて、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律(2021年5月28日公布)が整備され、これに伴って、診療放射線技師法等に関する法律も改正・施行(2021年10月1日)されており、このような現状を受け、今回は医師・歯科医師の放射線診療業務から診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアに関連する医療放射線の安全利用について検討されました。

フォーラムには、医療放射線の安全利用に携わる医療関係者や診療放射線技師、医療施設の放射線安全管理業務者、医療放射線安全管理責任者など、100人を超える参加がありました。

プログラムは、総合司会として菊地透先生(医療放射線防護連絡協議会 総務理事)が執り行い、佐々木康人先生(医療放射線防護連絡協議会 会長)より開会のごあいさつがありました。その後、基調講演「医師・歯科医師から診療放射線

技師へシフトする業務の概要」について、本会副会長 児玉直樹氏が講演し、法改正の概要を解説しました。続いてパネル討論へ進み、討論のテーマは「タスクシフトと医療放射線の安全利用」とされ、以下の4人の演者の講演がありました。

1. 「放射線科医からみた働き方改革」
日本放射線科専門医会・医会 理事長 山田 恵先生
2. 「医療安全の立場からの期待」
医療の質・安全学会 理事長 松村 由美先生
3. 「核医学診療部門における看護師の役割～当院での現状と取り組み～」
日本核医学会・核医学看護分科会 副会長 原田 貴子先生
4. 「診療放射線技師の立場から考えること」
日本診療放射線技師会 副会長 富田 博信

フォーラムのまとめとして、発表者全員と参加者による総合討論と提言作成が、座長の医療放射線防護連絡協議会 企画委員長 大野和子先生の下で行われました。提言内容の詳細については、後日、医療放射線防護連絡協議会より広報されますのでご参照ください。(富田 博信)

2021年度 業務改善推進委員会東北地域 (みちのくこまち) 活動報告

公益社団法人日本診療放射線技師会
業務改善推進委員会 長谷川 志賀子

みちのくこまち第5回東北地区合同勉強会について

2021年11月6日(土)、業務改善推進委員会東北地域(みちのくこまち)による第5回東北地区合同勉強会「0(ゼロ)から学ぼう! 乳腺Part.5」が開催されました。当初、仙台で集客開催する予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの影響により直前になってWeb開催に変更せざるを得なくなり、事前の準備やスタッフ配備などさまざまな点で不測の事態となりましたが、東北全域にわたる関係者の皆さまのご協力により無事に開催できたこと、加えて視聴登録者数は約250人と予想以上に盛況であったことに、深く感謝申し上げます。また想定外のWeb開催によって、男性技師や遠方の県からの参加者が増え、より広範に活動できると思われました。これらの経験を踏まえ、今後もWeb開催は必須という関係者一同同意の下、他県での持ち回りも視野に入れて柔軟に対応する必要性を感じています。

初めに、メーカー共催セミナーとして、GEヘルスケア・ジャパン(株) Women's Health 営業推進部の山下清美さまより「世界における造影マンモグラフィの現状と日本での未来を考える」、コニカミノルタジャパン(株)ヘルスケアカンパニーIoT事業統括部プレストヘルス営業部の加野亜紀子さまより「SAVI(サヴィ)による加速乳房部分照射~これからの乳房温存療法~」と題してご講演いただきました。「メーカーからの新しい情報は視野が広がり良かった」「メーカーの話は1社では物足りない、2社は必要」といった感想も頂き、新しい情報への関心の高さがうかがえました。

続いて、メディカルスタッフセミナーとして、小国町立病院の伊藤真理さまより「MMGの知らない世界~画像処理って神アプリ?~」と題してデジタル画像におけるパラメーターの重要性について、公立置賜総合病院薬剤師の安部一弥さまより、乳がん治療シリーズ第2弾「化学療法について」と題してご講義いただきました。他の分野について知見を広げる企画は、この勉強会の魅力の一つと思います。

最後に、宮城県立がんセンター乳癌外科の大貫幸二先生より、特別講演「マンモグラフィと超音波検査の組織型推定~より良い検査のために~」と題してご講演いただきました。マンモグラフィのみならず、病理の見方や超音波のしくみなどを交え、乳房検査について多面的にアプローチした圧巻のご講演だったと思います。

思いがけなかったWeb開催は、地域を超えた交流が機動的になったことを実感させられ、今後の勉強会の在り方を再考



する機会となりました。これからも多様性に富んだ勉強会を企画し、知見の共有に貢献できればと思います。

東北放射線医療技術学術大会みちのくこまち企画について

2021年10月30日(土)・31日(日)の2日間、福島市で第11回東北放射線医療技術学術大会が開催され、業務改善推進委員会東北地域(みちのくこまち)企画として「放射線技師のワークライフバランスについて本気で考えるpart2~コロナ禍における育児と自己研鑽」を行いました。前回からの持ち越し企画である本セッションは、コーディネーターとして総合南東北病院の國分美加さまと太田綜合病院附属太田西ノ内病院の関根理沙さま、講師に社会保険労務士の佐藤富蔵先生をお招きして、育児と仕事の両立をテーマに検証しました。企画は、管理者を対象にしたアンケート調査の結果報告と、規模が違う施設の事例紹介、そして事前に募集していた働き方についての質問を社会保険労務士の先生に法的観点から意見を伺うといった内容でした。今回のセッションは2年越しの企画であったこと、そしてその間に私たちの日常生活が大きく変化したことも相まって、とても密度の濃い内容となりました。結果として「内容が濃すぎて時間が足りない感じがした」「1時間は短かった」といった感想が見られましたが、「セッションの雰囲気良かった」「他施設の現状を知ることができ、とても良かった」「働き方改革について2回を通して、制度の概要を知る良い機会となった」といった好意的な意見も見られました。

働き方についての検討は、経営者の考えや病院の方針など、やむを得ない事情に影響されるため、落とし所がないまま終了するのが常態化してしまうすっきりしない企画です。とはいえ、生涯にわたって安心して働くことのできる環境づくりを目指し多くの事例を交えながら、今後も検討を続けていきたいと思っています。

2021年度 近畿地域診療放射線技師会 学術大会 in 奈良 報告記 (Web開催)

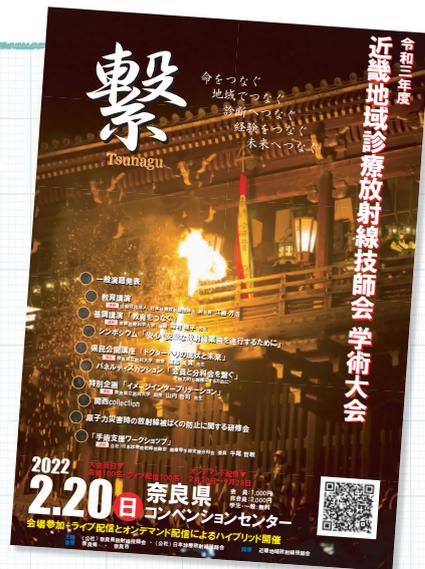
公益社団法人日本診療放射線技師会
近畿地域理事 高嶋 敏光

2022年2月20日(日)、奈良県コンベンションセンターにおいて、完全Webオンライン方式により標記学術大会が開催されました。

本来ならば近畿各府県の会員諸氏が一堂に集い、華やかな雰囲気の中で、臨床現場の工夫や研究成果の発表とともに、議論や研鑽(けんさん)の場である学術大会として開催される予定でしたが、昨年の中止に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染症オミクロン株の急激なまん延による影響に伴う対応を余儀なくされました。

感染症対策が講じられた会場は、Web配信のためのパソコン・映像機器・通信機材といったもののみが配置され、無機質という言葉で表現されるような一室に、奈良県診療放射線技師会役員、実行委員ならびにWeb配信会社のスタッフという十数人のみが集いました。そして午前10時、テレビやラジオでの放送で繰り広げられるような、ディレクターからの「5秒前、4、3、2、1・・・」というカウントダウンで緊張感が漂う中、学術大会のWeb配信が開始されました。

昨今のコロナ禍における社会の経済活動の流動化や分断によるさまざまな影響が出ている中で、サステナビリティ(持続可能性)の視点が重要だという考え方が明示されていますが、このたびの大会テーマ「繋-Tsunagu-」は、まさに現代社会におけるキーワードともいべきテーマであり、「命をつなぐ、地域でつなぐ、診断へつなぐ、経験をつなぐ、未来へつなぐ」というサブテーマとともに、時



代にマッチした内容が盛り込まれた学術大会となりました。

具体的には、当日のライブ配信として「会員と分科会を繋ぐ」と題した分科会の先生方によるパネルディスカッション、奈良県立医科大学救急医学教室教授 福島英賢先生による「ドクターヘリの現状と未来」と題した県民公開講座、さらに近畿各府県の技師の先生方による「安心・安全な放射線業務を遂行するために」と題したシンポジウムの模様が配信されました。またオンデマンド配信は2月25日(金)から3月28日(月)までの期間において、日本診療放射線技師会 江藤芳浩副会長による「教育講演」、会員による「研究発表」、韓国・ソウル特別市放射線士会参加の「国際セッション発表」、画像等手術支援分科会による「手術支援ワークショップ」、奈良県立医科大学放射線医学教室助教 山内哲司先生の「イメージング・プリアンテーション」、さらに京都医療科学大学 霜村康平先生による「教育を繋ぐ」と題した基調講演、業務改善推進委員会である関西☆collectionによる「診療放射線技師の働き方改革の課題と人材育成」などの、盛りだくさんのプログラムの配信が行われました。

今回、費用面からWebライブ参加150人、オンデマンド参加150人という制限を設けた大会となり、会員諸氏には大変ご迷惑とご心配をお掛けすることになりましたが、大会の成功に向けてさまざまな創意工夫と周到な準備計画を進めていただきました担当である奈良県診療放射線技師会、ならびに実行委員会の皆さま方の献身的なご努力により、大変興味深いプログラムが組み込まれた素晴らしい学術大会となりましたことに対し、この紙面をお借りして心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

なお、本大会の優秀な演題発表に贈られる学術奨励賞ならびに近畿地域理事賞については、後日の発表となりますことをご了承ください。

結びに、新型コロナウイルス感染症がまん延している中で、2021年度の近畿学術大会が開催された未曾有(みそ)の経験が、今後の近畿地域診療放射線技師会のますますの発展とともに、会員諸氏の新たなつながりを生み出すきっかけの大会になったものと確信し報告と致します。

会費未納による除籍者から債権の回収委託を開始致します

INFORMATION

すでに会誌に掲載しております通り、2021年10月2日開催の2021年度第3回理事会において、未収会費の収納代行委託に関する議案が可決され、日本診療放射線技師会会費については2022年4月1日付で会費未納による除籍者より債権の回収委託を開始致します。詳細は下記にお問い合わせください。

■ 本件に関するお問い合わせ：日本診療放射線技師会 財務担当 江端 清和 E-mail：info@jart.or.jp

本会会員賠償責任保険(全員加入)の傷害保険部分および付随するオプション保険の終了について

INFORMATION

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長 上田 克彦
財務 江端 清和

本会が契約している賠償責任保険(全員加入)には対人・対物損害保険部分と傷害保険部分がございますが、傷害保険部分については2021年度第1回理事会において取り扱いを終了することが決定し、2022年7月1日午後4時をもって傷害保険部分と傷害保険にセット加入のオプション部分の取り扱いおよび更新が終了となります。これまで傷害保険のオプションに加入されておられた会員各位宛てには取扱保険会社・代理店を通じて同等の内容・掛け金となる代替団体保険をご案内させていただきます。

なお、対人・対物補償に関する損害保険部分については、補償内容および補償金額は変わらず保険に付随する各種サービスもそのまま継続となります。

タスク・シフト/シェアに伴う新たな業務拡大による対人・対物補償につきましても保険料据え置きで従来通り保険の対象となりますが、その際は本会告示研修を修了されていることが条件となりますことを申し添えます。

会員の皆さまにおかれましては、ご理解のほどよろしくお願い致します。

*ご不明な点は、以下の宛先までお問い合わせください。

公益社団法人日本診療放射線技師会 事務局 総務課保険担当宛て E-mail：info@jart.or.jp

JART電子ブックシステムの試験運用の開始について

INFORMATION

将来的なJART会誌の電子化を見据え、電子ブックシステムの試験運用を2021年11月7日(日)より開始しております。会員の皆さまには下記URLまたは2次元バーコードより「JART 電子ブックシステム」にログインいただき、ログインID・パスワードを入力の上、ご覧いただけます。

なお、パスワードは3カ月ごとに変更されます。今後、パスワード更新時には会誌でご案内致します。

■ ログインURL：https://www.jartbook.jp/jart/login.html



■ ログインID/パスワード：会誌参照

JART電子ブックシステムのログイン画面

第5回

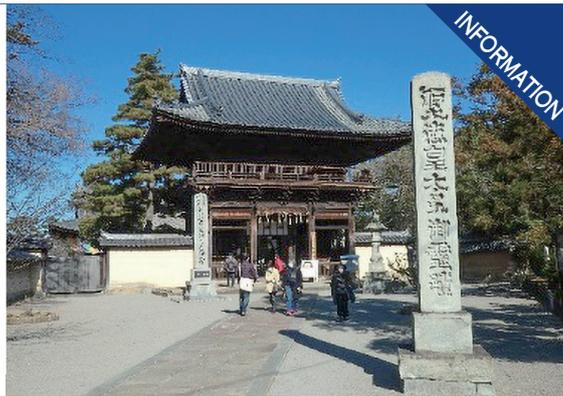
第38回日本診療放射線技師学術大会に向けて

兵庫への道 (神戸から全国へ)

～BE KOBE～

公益社団法人兵庫県放射線技師会

東播支部 加古川中央市民病院 田井 博明



鶴林寺仁王門 (県指定文化財)

播磨の法隆寺 ～国宝：鶴林寺かくりんじ～

兵庫県放射線技師会東播支部の地域の一部をご紹介します。大会は神戸市での開催ですが、電車で約30分、少し足を延ばすと加古川市という所があります。今回は、加古川市にある鶴林寺という寺院をご紹介します。

鶴林寺は西暦589年、聖徳太子が16歳のころに仏教を広めるための道場として建てられました。

境内には国指定の国宝2件と重要文化財18件、県指定文化財12件、市指定文化財24件があり、中でも太子堂 (国宝) は兵庫県下最古の建築だそうです。他にも新薬師堂には十二神将が並ぶ中、ウインクをする摩虎羅 (まごら) 大将の像や、宝物殿では奈良前期の代表的な銅造観音様であり、県内の仏像彫刻中でも最古の部類に属する観音様 (別名「あいたた観音」: 国重要文化財)、室町時代の建築とされる三重塔 (県指定文化財) など、数々の歴史的・学術的価値のある指定文化財を見ることができます。

毎年1月8日には「鬼追い」の行事があり、私も小学1年生の娘と行ってまいりました。天徳年中 (957～961) に始まったと伝えられ、国土安穩や五穀豊穡などを祈る行事です。災いに見立てた鬼 (赤鬼・青鬼と小鬼4匹で、赤鬼は右手に松明、左手に斧、青鬼は矛を持っている) が登場し堂内を周回しますが、やがて追い払われて平和な年が来ることを暗示します。もちろんコロナ禍の終息を祈願してきました。



太子堂 (国宝)



新薬師堂



鬼追い

加古川名物 ～かつめし～

寺院だけではなく、加古川にもおいしいB級グルメがあります。かなり前になりますが、『秘密のケンミンSHOW』で陣内智則さんが紹介していた「かつめし」…少しは有名になってきたと自負しています。



ご飯の上にたたいて平たくしたビーフカツを乗せ、デミグラスソース系のたれをかけたものを洋皿に盛り、お箸で食べる。

これがおおまかなかつめしの定義とされています。この洋皿にお箸というのが実に大きなポイントで、戦後間もないころに加古川駅前の食堂で考案された「お箸で気軽に食べることができる洋食」というルーツから来ているといわれています。

今では加古川市やその周辺の100店舗以上で食べることができます。

かつめしは、加古川市とその周辺では多くの飲食店や家庭で親しまれていますが、市外ではほとんど目にする事のない不思議なメニューです。ビーフだけでなくポークかつめしもお薦めです。私も子どものころから大好きなメニューの一つです。ぜひ、この機会に召し上がってみてください。

最後に、コロナ禍の中ではありますが、日本診療放射線技師学術大会が無事に開催されること、皆さんが楽しく過ごし、たくさんの学びがあることを心より願っています。

第38回

日本診療放射線技師学術大会

38th Japan Conference of Radiological Technologists

会期 2022年9月16日(金) — 18日(日)

会場 神戸コンベンションセンター [ハイブリッド開催]

会長 上田 克彦 公益社団法人 日本診療放射線技師会会長

大会長 後藤 吉弘 公益社団法人 兵庫県放射線技師会会長

タスク・シフト/シェアに伴う
業務拡大を推進しよう

革新の挑戦



主催/公益社団法人日本診療放射線技師会 共催/公益社団法人兵庫県放射線技師会
後援(予定)/厚生労働省 日本放射線技術学会 兵庫県 神戸市 神戸新聞社

〈運営事務局〉
公益社団法人 兵庫県放射線技師会
神戸市中央区元町通5-2-3-1011 TEL.078-351-5172

きき方について



私たちは、社会（人間の集団的協働生活の場）の中に生きています。家族社会や職場社会などに生きている限り、コミュニケーションは不可欠といえ、生きている限り誰かとコミュニケーションを取り続けています。

私たちは、普段2つのきき方をしています。日常生活の場では多少の取り違いがあっても気にも留めずやり過ぎたり、自分にとって都合のいいようにきいていることがあります。このきき方には「聞く」が当てはまります。それに対して、大切なことを伝えるときや相互理解を深めようとするときには、相手が言おうとしていることをそのまま理解するために十分耳を傾けようとしています。そのきき方には「聴く」が当てはまります。これらについてどちらがいいといえるものではなく、その場に応じて使い分けなければなりません。

またそれぞれに対してこたえ方も違ってきます。「聞」→「答」

が、「聴」→「応」が対応しています。字の構成を見ると、前者は“耳できいて口でこたえる”となっているし、後者は“心できいて心でこたえる”となっています。本当に反応するきき方、言い換えれば、分からないのに分かったようなフリをするのではなく、分からないと正確に伝えることがそれに当たります。

「聴く」とは、相手の言わんとすることを、相手の立場に立ってそのままきくことです。

相手の言葉の裏にある気持ちを感じながら相手の考えや気持ちを評価しないで受け入れることを、日常の仕事や生活の中で活用できれば、人間関係が良好になるばかりでなく、自分自身が人前に立つのが楽になります。

コミュニケーションを取るということは、お互いに相手の考えや気持ちを分かろうと努力することです。

(文責：山本 英雄)

診療放射線技師のための フレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケット・マナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎（都道府県により違いあり）など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定： 佐賀 4月23日(土) 群馬 4月24日(日)

4月・5月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■告示研修（基礎研修）： Web開催 2021年7月31日(土)から【e-ラーニング形式】

※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。

ホームページ閲覧のお願い

INFORMATION

「業務拡大に伴う統一講習会」「診療放射線技師基礎技術講習」「告示研修（実技研修）」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/2022_schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000081c3.html
- 「告示研修（実技研修）」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/kokuji_schedule_2022.html

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。